

# インフラテクコン提案概要書

学校名	香川高等専門学校	チーム名	雄風
応募部門	協働	選択テーマ	住民参加
提案名	香川県民のための土木リテラシー向上に向けての提案		

## 1.背景

10年後、日本では橋梁の年齢が50歳を超えるものは43%に上る。そして自治体ではここ10年、土木職員は20%以上減少している。これらの状況から、行政のみによるインフラ保全は厳しいものと言える。そしてインフラが使えなくなることによる機会損失が発生しないように、日頃からインフラを利用している住民が土木の現状を知り、保全に協力してもらうことがインフラの維持に必要不可欠である。

## 2.目的

住民の土木リテラシー<sup>\*</sup>を向上させるためにイベントを行い、主体的に参加できる仕組みを作り、住民の行動と体感を一致させる必要がある。本提案では前述した仕組みを作り、住民の土木リテラシーを向上させることを目的とする。

※土木リテラシーとは土木に関する様々な課題を解決するために、土木のことを正しく認知・理解し、そして行動することができる能力のこと。

## 3.達成手段

住民が土木について自ら興味・関心を持ち、大まかに認知・理解して行動する。このサイクルを行うことにより土木リテラシー向上の目的を達成する。

### 3.1.興味・関心を持ってもらう

土木に興味・関心を持ってもらうため以下のことを行う。また、土木の魅力が伝わるようにもした。

#### 3.1.1.イベント

学生自身が役所や企業と協力してイベントを企画立案し、実行することにより学生特有の目線を生かす。

これは既存のものに対して一線を画すものができるかと予想される。また継続的に行うため高専がプラットフォームとなり学生が各々自由に企画するものとする。構想にイメージ図は添付資料I(イベント継続の仕組み参照)

その一例は添付資料II(イベントの一例)を参照。

#### 3.1.2.「現代土木偉人の群像」の展開

小中学生をはじめ多くの住民に多様な土木技術者の生きざまを知ってもらい興味を持ってもらう。より詳細な内容については添付資料III(現代土木偉人の群像構想)を参照。

## 3.2.認知・理解してもらう

土木に関する様々なことを認知・理解してもらうことにより土木が行っていることに対しての知識を深めてもらう。

一例として、橋梁模型を取り上げる。3.1.1.の記載のインフラの勉強会やHPで展開図を公開して多くの人に利用してもらう。そして、橋の構造を学んでもらい、橋梁について簡単に理解してもらう。添付資料IV(橋梁模型)を参照。

## 3.3.実行する

日常生活の中で住民自ら構造物に気をかけ適切なところへ通報することができる。

はじめて使用する人が簡単に損傷を確認することができるチェックシート(添付資料V)である。運用方法等については添付資料VI(チェックシートの運用)を参照。

## 4.課題と今後の計画

今回、計画案を製作することができたが有用性を確認することはできなかった。

本提案の計画を来年以降実行し、住民の土木リテラシー向上を目指す。

そして少しでも理解、関心を得る人が増え、最終的に公共事業への理解が進むよう本計画を実行する。

## 5.参考文献

5.1国土交通省老朽化対策の本格実施について

<https://www.mlit.go.jp/common/001027125.pdf>

5.2橋のセルフメンテナンスふくしまモデル:

[https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/03activity/pdf/02\\_05MLIT\\_02.pdf](https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/03activity/pdf/02_05MLIT_02.pdf)

5.3土木学会誌第105巻第12月号:災害情報は防災・減災の「主役」なのか? - 「行動」・「体感」・「過去」とのブリッジあってこそ

## 6.謝辞

インフラテクコンの話題提供など、たくさんの協力をしてくださった、株式会社soraniの水本さん。提案概要書の校閲など、ご指導をくださった長谷川先生、林先生本当にありがとうございました。